

八江款名所畵畫

二

070
45
2911

H2
C



八江秩名所圖画二之卷

目錄夏之部上

倉江路仇 同古園 同新園 鏡江秋月

觀音院 玉江秋月 同古園 同新園

玉江太河之越圖 五鬼權現社 天狗拍子之番

梅屋敷之園 光山寺 櫻江某首 晒場之園

金輪寺 面影山 櫻江某首 同古園

同新園 同渡場之番 大野院 同樂番

高日院 清心院 道樹院 崇觀音堂之番

小松江晚鐘 同古前 同新図 古川筋

西法寺 辨八幡宮 同園

長門守守へ白雉を献する園 永福寺

西福寺 福昌寺 茶臼山

三以上目録參拾九條

目録

目録

目録

八江扶名所園画二之巻

八江扶名所園画二之巻

木村恒光 著述

夏之部上

倉江歸帆 八江浦城八勝の一として此景殊に杜路の地

なる高東原の長閑な水出れの島根に波の花をちりし雲

の上は鳴く郭公ハタヤミ早くすびておもしろいをうらみ金風

乃涼しく立てハ初汐は磯への松をあらふ小舟啼く釣舟ハち

りりたる落葉のこまの漕ぎより大船の帆ハ雪うらもした

もくろへくいていしくありねるりのけうくを四方の風

流士ときさくけりて是を賞悦せぬハあし

地堪遠天三面開水邊最爲一枕田倉江風動潮生駛

疑是仙樓銀葉平 原 欽

ももものやいもものつとみうらうらやうらわてゆめつゆつひ 春 月

四ノ五言は地ハ山嵐の尾千の鼻千の千まを結さ雨のいしちつて
まていっつとつとまごうらうらつはよいより大河とらうらのはは古川東なり
上へのよ北走よはすせられさうらと

鏡江秋月 いしへへ 更萩八景の一として玉江川尻の所

ありーといへり

湖音山觀音院 二 玉江浦町の中程よりあり藤家の禪刹より

へて洞春寺の派中なり木尊釋迦如来ハ金銅佛の唐作とい

小開山不見別當の草建よて大同年間ありといひ傳よ

就中破壊して久しく絶えうを永祿年中一傳得公座元

和尚これを再建す是則中興なり

觀音堂

本堂のやまあり本尊觀音の市井に觀音の内華に毎とす儀起
よけむり一當りの善人語りせし神子出て刻を入りよ忽ち度
ささき舟をとうて舟底より佛光現れしこと考據するに明を拜揚
るれば金銅觀音の當徳を得たりかて竊ふかへりつとくふはすを
銘りてこれ村長榮寺神のこころとて
當寺は草堂なりこれと信心慈とす

玉江秋月

八江萩八橋の一として珠葉月の比ハ詞人

吟客よよ華遊して月を賞苑ふ陸より行りのあれこ

倉江跡代古岡

地掘連天三面開
水漫數島一枕田
倉口旭朝土岐
疑足山植銀漢東

原歌

倉江跡代古岡
地掘連天三面開
水漫數島一枕田
倉口旭朝土岐
疑足山植銀漢東



新地原歌

三

倉江跡代古岡
地掘連天三面開
水漫數島一枕田
倉口旭朝土岐
疑足山植銀漢東

本日



新地原歌

雑興集

月はゆるく花の上を澄らかりて青海原空しひのくもる白
露と水光を住の権蘭の葉おのりころく上り下りと飄々と
して世の塵を連れ影よりて憂き懐を遺ち詩歌管絃は
さゆぐさあるに催馬樂筑紫風ある都風みやうとされ
てこころを秋の夜け水もさよさらば月の入ふはひの月よと
はく杯盤俵積もてに東方の白うらみうらみからされぬ雅の
輩此里よりうきは境を遊ばさしめぬ
今わかれはこころをさしめぬ
井をささぐさささささへ
當可をいへては井とに
憂安を問ふは思ふに

玉江一片秋

明月入清流

夜静人面有 漁村烟霧秋 景欽

川のあまゆるのけんとふぶをみくくくの秋の秋の丹 春貞

五鬼權現社 同所浦町より二三丁を隔て南より二丁は

うりの石壇をのちりて山の中腹より号けて権現山といふ

天狗拍子の舞

三鬼権現の社事と修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より
天狗の舞を許すついでに秋の夜より修行十正のついでに秋の夜より

五鬼権現社

玉江大河の惣圖

今夜瀛城月射青關
上有晴峯字八木安
影落一轉下於地塵
中大天覆團曉鐘隨
堂在懸賞肉備于

何處無明月三江最賞
秋澄水風聲曉晴岸樹
離舟艤与誰前伴但道
鷗鳥遊波窮幽靜麻柳
上覽玉樓 南其

舟入江流



舟入江流

一碧雨晴遊不流波光
如白月滿樓笙歌逐入
西風起人住廣寒宮樓
秋 則南



舟入江流

其二

其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...



其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...

其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...



其地... 其地... 其地... 其地... 其地...
 其地... 其地... 其地... 其地... 其地...

玉江秋月古岡

江の秋
うららかに
あそびて
あそびて
あそびて
あそびて
あそびて
あそびて
あそびて
あそびて



玉江秋月古岡
玉江秋月古岡
玉江秋月古岡
玉江秋月古岡

玉江一
片秋
明月入
清流
夜静人
回有
漁村
高水
巻歌



玉江秋月古岡
玉江秋月古岡
玉江秋月古岡
玉江秋月古岡



三兵國

十



三

三

天
日
一

此
處



五鬼推現社前
天狗拍子の圖





大正陸版

玉江
橋屋敷



大正陸版

漢より元帥の建武の法も四宗よりありて保本としてつづ
つたれども貞和九年四條河原にて新座本を山田を興行すまじり
棟並をうちあはせ辨せしむり住山に義行しんかとおこれ
より或人の山田と高麗よりゆくりの心とをさして辨の法より
てこれの法も四宗の法ありて
余は願の法よりつづつて

時守山光山寺 同所よりまじり三丁程南にあり一向宗よりて
瑞坊に属す永祿七年の建立よりて開山の釋了春といふ
春は京師の人よりて流浪して武田將監と名なりしものあり
本尊は阿彌陀如来なり

高登山楞嚴庵 奥玉江坂口よりあり臨家の探林よりて洞春
寺に属す相傳ふ初め阿武郡山田村水舟よりありしを慶長

の中頃當所よりて再建に本尊正觀音は佛師大仏の作より
て開山を芳室秀公座元和尚といふ當寺制札左に寫れ

禁制 楞嚴庵

於古律殿前平見より
後反竹ありより
穀生より

大に傍に法を制より若くは遠祀より
てし中法殿科志也似りおみ候
寛永七年六月十日
玄子殿

玉江晒場

水の上の山にありし山の村
 かつては千石の流をせりし
 陸のこゝで世の世のもの
 ありしは千石の流をせりし
 ことしは千石の流をせりし
 こゝに千石の流をせりし
 千石の流をせりし
 千石の流をせりし
 千石の流をせりし



山の上の山にありし山の村
 かつては千石の流をせりし
 陸のこゝで世の世のもの
 ありしは千石の流をせりし
 ことしは千石の流をせりし
 こゝに千石の流をせりし
 千石の流をせりし
 千石の流をせりし
 千石の流をせりし

金輪寺 同所より一場より二丁程北にあり

侍山 今葉屋氏下やまの山ありと世俗のいひりて行く所あり
 春殿公重き御由緒にて東屋帯刀と晒すとふふれあれと證文を
 あらして佐古くより云侍山の豊浦なる生羅村の内なる山をいふ
 るり一山をいふと見ゆこの世よりいふは是れ阿武の松原の味も
 いふははるれ如くたりいふはるれはあわれいなりなり

侍山 龍田秋枕云 長門

金輪寺生倉 侍古の伊入とソノ所よりあり山の形不二と似たり
 遠く見渡すに山姿長よりて雲すりに堪より侍山形

山両様と通して、この山は、つげとやうちと何うもせうをい
と其義違へり、形山とよふは、基も深きなり

夫木抄云、伴山、長門成云、因幡、筑前、等、の諸抄も、伴山

長門とあり

和歌集

いかにとて、こゝろも、まゝの、の、を、を、の、ひ、を、れ、を、た、は、り、り、の、山、

は、歌、の、了、く、れ、お、り、る、の、山、因、幡、は、但、夫、木、抄、伴、山、の、哥、の、内

山、日、祐、筆、の、い、は、い、を、も、引、用、の、さ、う、然、れ、は、れ、も、り、山、も、れ

全、集、を、も、り、内、の、山、も、同、し、所、も、や、な、り、と、い、ふ、

三

つげとやうち、伴山、の、ま、う、り、と、よ、ふ、抄、の、と、志、い、て、つ、げ、ね、姑、も、娘、上、妻、

永、久、四、年、七、月、忠、隆、家、歌、合

藤、原、為、忠

侍、の、日、さ、ぬ、く、伴、山、の、月、と、い、は、い、心、を、せ、り、つ、げ、ね、り、り、

櫻、江、兼、雪、八、江、萩、八、景、の、一、十、一、て、尤、風、光、を、射、へ、り、名、も、お、ふ

春、の、櫻、江、打、霞、こゝ、水、の、翠、の、春、と、争、ふ、吹、風、十、白、が、あ、る、一、に

著、を、い、は、し、は、い、梅、山、の、鐘、の、音、一、夜、の、い、さ、く、史、こ、を、を、か、と、あ、き

野、が、い、ぬ、へ、吟、味、く、ま、て、繩、手、住、来、入、秋、を、禁、山、渡、守、を、呼、は

ふ、下、ふ、深、雪、の、中、に、埋、れ、て、面、影、山、の、姿、の、こ、舟、舟、魚、な、る、こゝ

ま、と、奇、ち、う、と、す、へ、一、方、中、の、驛、人、あ、を、い、お、と、お、せ、り

十六、一、支、二、龍、藏、殿

櫻江暮雪古園

守馬櫻江史前津院
未十早討行人風田
偏帽入珠碑得轉何
妙麗草類 石歌



櫻江暮雪古園

三

あらし雪の

アノ世もい

はらりりしれ

けの脈よりで

ちこくしきせ

こころ

春目



十七
大
史
前
津
院

長門郡津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山... 津和野大野の三ツ山...



十八 津和野大野の三ツ山



小津野大野

三

香滿櫻江更明津 晚來舟早訝行人

風回偏惜入波碎 楫轉何妨雁笠頻 原叙

白雲の夕たけのはささくははるみかけてちうつとをる 春日

靈橋山大照院 元の觀音寺と号し櫻江より京師南禪寺

派の禪園として後臨家ニヤ寺の一なり

本堂 本尊千手觀世音菩薩を安置に天竺仏と相傳ふ當寺

とはりの月輪山觀音寺といひりひり一人皇五十代桓武天皇

の御宇延暦年間御草創して勅額道場の併城なり開山を

義翁傳等大和ぬといひ後号を大橋山觀音寺と改む夫より

三

大橋山

久しく廢壞して佛の草舎を承應年間大照院殿の

御菩提所と定ませむして即御法号を以て即寺の号と

し山号をも靈橋山と改められりやと後延享四年四禪

のりて頃史の同天樹院の地に移り又寛延よりりて當

所へ御再建ありて伽藍堂宇昔よりも廣大なり即て中

興を南禪言如圓尊和尚といひりきと曰當寺を大橋山

といふ靈龍ハむり此山の頂上より大橋樹周圍六尺中も

餘も古木ありて夜毎に光明を顯くやう是や樹樹精神

の靈驗著しとて一葉桐を替りて山の中央より化り春より

大橋山觀音寺

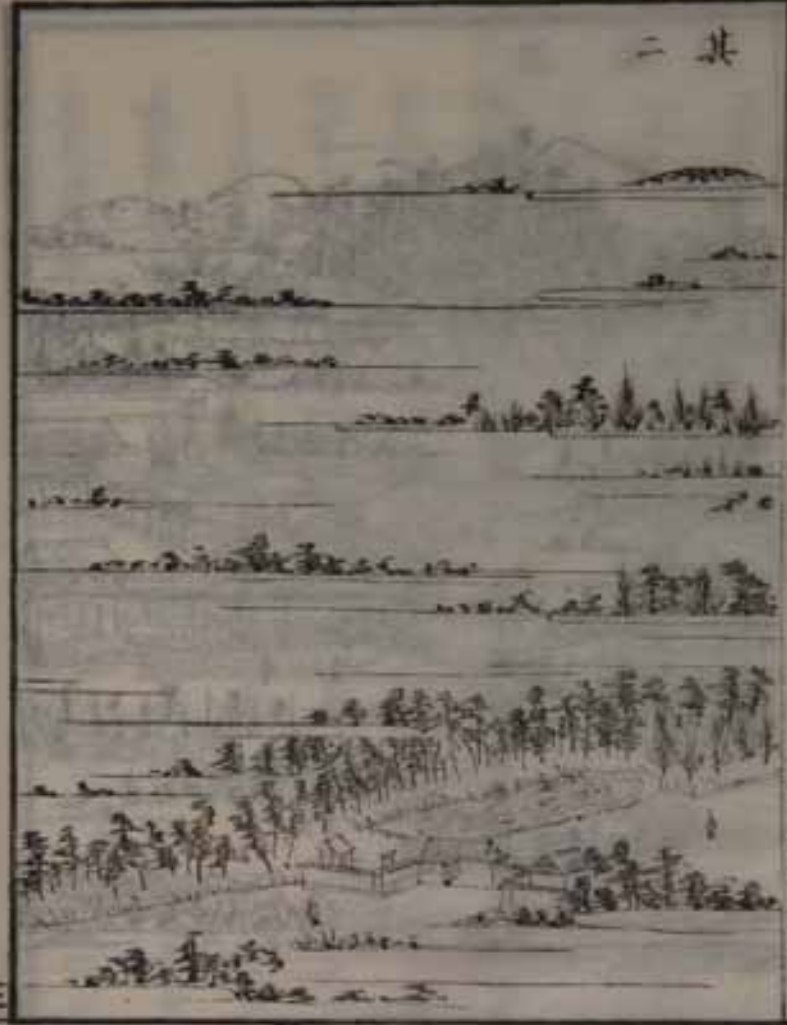
其二



大照院



其二



新
興
山
水
圖
卷
之
二

遊
蘇
山
頭
秋
色
原
青
水
影
落
白
雲
平
向
東
夕
照
紅
似
霞
致
仕
則
羊
腸
散
替



遊
蘇
山
頭
秋
色
原

新
興
山
水
圖
卷
之
二

新編 皇代通記

則銀守神祇園社是之されハ此事によりて山号をも大橋山と改む

開山義前大和尚像中の古銘

建武二乙亥十一月戊子朔廿一日庚午八歳授百十三年始而奉造上
于時文安四年丁卯五月廿二日祀焉即建武大安平六能集乙巳秋八月
一日作華始之阿也九日連畢則時未迄民者也
住山師立 許前より法安社後 奥州人也

煙庫

御社敷敷を獲けりて鏡光院敷の御木儀
を安置し御入納り舟の儀をりす
重修煙庫山師記

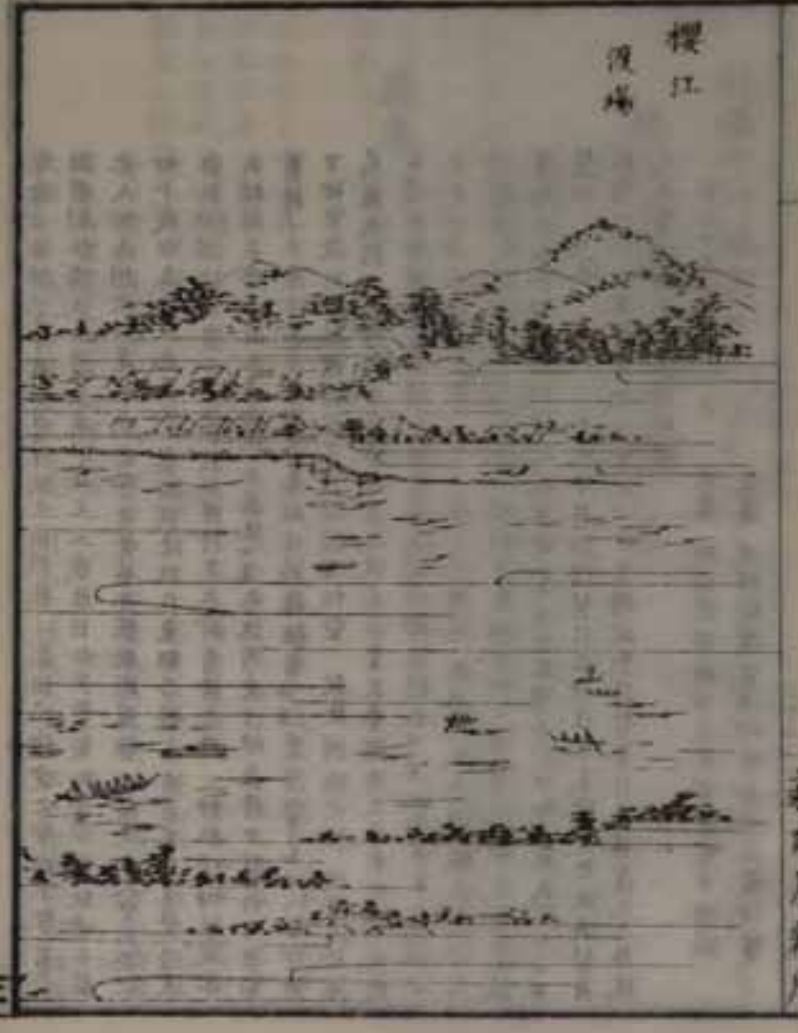
寶曆七年庚寅檢山師康重持成良是具成則先侯之志願也 十中痛之西
由先賢之紀也百重開十二帝者乃統攝也而即 先侯之遺像於其中
安置易朝程可憐三位傑然日夜以來奉文德紙同極之儀也 十中是成安
永仁未道後二十五年正五道時諸正不堪進基相与謀而欲作鏡庫此其
贊功能執行事傳諸十成矣是未世宮日謝勉病不欲不可也亦嘗以侍讀
因勉病謹書其概記別情在云
伏惟 平城天皇苗裔御院院長二州土大膳大夫從四位下行侍從大紅朝臣

聖德太子

聖德太子保二年十月七日乙亥長州秋 奉御儀雖安之筆跡小字百金
勅書別位薄氏 君主美如珠玉玉敷眉目如畫製製如畫物慧敏述而佳
也人仰面相之好是此記君有奇骨若非聖勅則屬非庸人也人望而畏之
如十歲以上之人也是哉 奉御儀述載在東都乃雖左右百官皆爭以天
勅記君 以百唐乙酉年大統庚子年五齡者時之時 神祖建御尊也都
大神明衣丹后君之是物別也其後皇令改國使女嫁長壽十一月廿六日聖
者將十二年丁未正月朔日奉御儀賜御尊也 乙丑年二月廿八日齊州
百孫川次口御命諸州氏是連前道押相望 朝臣別位之使 檢校後治
馬兼大校也乃傳成甲大奉御其大校不亦皇天眷顧所及乎有司者則相
多謀而無謀於天州時不於牧畜之詞以聯不朽也 十中皇年未育四日
不亦極心而造國春秋 十中皇于大照院 先皇之次法皇也 聖德太子
論書年大皇太子云 聖德太子之德格有在聖日射人性深推有若英帝而能
實神人容新御則聰明英武聖太子若英帝也若聖太子則早知天下天下
賢心 聖德太子 聖德太子若英帝也若聖太子則早知天下天下
聖德太子 聖德太子若英帝也若聖太子則早知天下天下
聖德太子 聖德太子若英帝也若聖太子則早知天下天下

安永四年己未春二月 天皇 明倫御尊在少會實廣序平護派

長壽 明倫御尊在少會實廣序平護派



大照公御廟祀此廟所牌名

大照院殿月明紹澄大居士

孝安宗照居士 建永四年正月九日

三養安宅居士 同年正月六日

華亭堅固居士 同年正月六日

傳外以心居士 同年正月六日

華岳惟信居士 同年正月六日

惟忠玄功居士 同年正月六日

梅心孝保禪定門 同年正月十二日

和仲淨春禪定門 同年正月九日

歷代御廟

奉嚴院殿 綱廣公

青雲院殿 吉廣公

觀光院殿 宗廣公

容德院殿 治親公

清德院殿 齊嚴公

崇文院殿 齊廣公

釋迦堂

所存の法山より其堂宇ハハ、當山地谷ニ入林の木一株あり、
くハ、其用ニて其一本を以テ佛體ニ一舟ハ明觀音ノ時代ニ、
轉リて朽コシテ一本を觀迦如來ニ佛體ニ、一ツハ又ハ其佛體水
ニハテ彫刻シテ一ツハもう一ツハ佛體ニ、其佛體中の佛體ニ、
日本國長門河内郡津浦九橋山禪寺佛殿本尊永修覆字牌
觀迦如來

大檀那沙弥源勝

二好氏

建永三年四月十二日

當山十景之八

國道巖

東明廟

白櫻嶺

華嚴峯

白鷺池

翠竹園

丁字水

小松江

蓮供場

渡香橋 中の門より下通あり
今観音堂の橋をいふ

田所
の橋
門
揚
行
在

実色石

神
の
門

選佛場

此外
の
累
り

高月院 同所御位牌殿あり供あり同寺の支院あり

開山鶴天慈松和尚あり

相傳ふ美祿郡青葉村月溪院を引て号を改む元禄三年の

建立あり

清正院 同所御本門内の右あり同寺塔頭の一ありて開

山ハ高月院ニ同

相傳ふ美祿郡青葉村慶久堂を引て元禄三年建立あり

所あり初め清涼と云後正に改む

道樹院 同所の塔中より東門の外右あり

相傳ふ厚狭郡宇津井村寶隆寺を引て号を改め元禄十年

建立あり所あり

小松江晚鐘 同所をいふハ江菰入膳の一ありて風景黄昏を

小松江晚鐘古園

山ありて

こゝろにて

をよむの

おのろつた

おのろつた

春貞

山ありて
こゝろにて
をよむの
おのろつた
おのろつた
春貞
小松江の山ありて
こゝろにて
をよむの
おのろつた
おのろつた
春貞



所霞夕鐘
峰深寺度
味鐘渡
春江水平
春林の心
日叙



小松江の山ありて
こゝろにて
をよむの
おのろつた
おのろつた
春貞



三岳園圖



三岳園圖

三岳園圖
 松樹
 亭子
 山景
 水景
 雲霧

三

三岳園圖

音観楸



新編 浮城 巻之四

尤も佳とす

断霞夕晚峯 深き度疎鐘

漫漶春江水 平春接外松 原欽

山のくもあまらうてまき江のねうつさふあひの山 春日

古川筋 同野視より架る小橋の流まを以山源ハ川上河より

て螢火山の麓より霧口をかきり南明寺の下水溜り入大

谷長狭の中をいでて濁り洲 今橋社一ノ島名より小松江通の大

照院の前まで流る川を以きて古川と云ふも今の大河出

来たりし以前よりあれハ此縣有と云り或人云世ハ古川筋

平八ノ歌 巻之四

と云ふ説ありと云ふりもハ此橋本川の往昔よりありて川幅
も今よりハ廣き所ありて大慈院本門前より迂り込ハ入田うて
み多橋本川の流まうりさうり以御寺御再建底て參詣者ちと
して新二道を作らせりさうりかの本門前より今の如く御開地
とろりさうりめ其後田浦へとも水流を付られて御寺の前
通りへ切ぬれりさうり此河開地の所ハ昔の大川のうち
かれハ猶徳毛の残りとも名もるへ一古く螢火山の麓より流
ま出さふもあらさうり慶安表画圖を閱ても明らうなり

光明山西法寺 青海よりあり浄土宗よりて龍昌院より属氏

三

開山ハ心蓮社光譽良開和尚よりて享保年間ハ建立さうり

本尊阿彌陀如来千体頭長三尺五寸 脇立觀音五百体頭長一尺五寸

地藏尊頭長二尺 阿彌陀如来百体頭長二尺 觀世音菩薩百体頭

長二尺 地藏尊百体頭長二尺 三尊体百体頭長二尺 の數多を安置す

相傳ハ元祿の比岸水浮雲の僧来りて千体の畫像を彫刻し

則當寺を建立せし所より世人當寺を号て千体佛と云ふ

縁起云々あり

大當山千体佛之尊像者其以前一人之有妙門河武野梅岡等山之地
本尊阿彌陀如来之畫像而新舊近世時七幅七甲尺其像如蘇五
水二河之狀九月之九十二箇年佛星南列之在蘇不代其成說者也
傳七十寶二月十四日本堂西建立并ハ佛供養等在之伏西體者千体佛

三十一 縁起云々あり

之香地 伊勢國 石部 日月 光 輪 三 宮 安 休 而 山 嶽 生 死 之 妙 衆 無 盡 乃 見 け び 二 世 國 萬 應 地 為 成 結 介 休 之 界 標 起 云 爾

橋八幡宮 橋村西分より同所より五丁より東にあり秋五社

の一宮扉外の總鎮守として邑郷の産土神あり

祭神 應神天皇 神功皇后 仁德天皇 仁孝天皇 仁明天皇 仁孝天皇 宇治天皇 大宮司青山氏奉祀す

贊辭より神主祠官社人等多し

社傳より曰住吉人皇八十七代 後嵯峨天皇の御時仁治四年

二月十五日右大將源賴朝卿の幕下佐々木四郎高綱宇治川

先陣の勲賞として長門國守護職を掌りし時相模國鎌倉

鶴ヶ岡八幡を遷し奉りて一郡一宮の守護神として此橋村に

勸請せし所なりと正治年中三好康久夢想に下りし當郡

木部村より勸請せし所なりといふ 慶長年間川上村に在りて是

所田殿は是れ木部村に在りて是れ一宮の守護神なりといふ 後寛永二年八幡宮秋地橋郷の内四至の境を

通つ川島庄と秋村とに權現を勸請す 今も秋權現社の中津に

上りありては 大井村として八幡宮を勸請す 今大井村 此時阿武郡

界を分つて十八郷といふ 橋本西 橋本 各古 高江 古郡 栗嶺

大井 橋本 各古 高江 古郡 栗嶺 大井 宇治 各古 高江 古郡 栗嶺

るよりして太宮司伊兼宗吉郡中の宗司として於當所春

秋兩度諸郷の神司を集り國家安全の祈禱を奉りて二



新編
浮城物語
卷之八

夜三日と終れりといひ傳へり夫より世と連絡して萬治
年中泰藏公の御時御修營を加へさせむいて本殿樓閣
弥備りよりまゝ神明宮御座土神によりて當社をとて御
遷拜所となさしめり是當社の規模とありり

まゝ云當社園社の往昔人皇九代 開化天皇十五年の春南
山の嶺一夜あけ瑞光ありてやむとまゝ村里のまじり驚き
て直に是を應ふ許し官吏即て山よりまゝこれハ巖上より老
翁現れむし宣ふ所せ々々ハ我ハ天の下園内をとりて守護
まゝ素盞鳴尊之此地山海の景色殊勝なり尤邊要の根地

より我當地ハ垂跡ハ承く万民を撫育すへといひて山の内
まゝ入る夫より晝夜の蒸別をいひ兼祠を營て幣帛
を奉り尊政を情をよりたりまゝ云延喜の御門の御代延喜
の皇子故ありて當國當時ハ左近公ひ一時此山は昔より生茂
まゝなる天椿樹周圍七圍ハ餘をりありてを切らせむいふ
は即神の宗りことらて夢中ニ告て宜く我ハ此地を守
り所の神より大樹ハ山をたもつ精神ありまゝ當國當郡ハ
殊ニ名木の生う所ちこれハ命より後此山ハ谷を入りてこを
禁にと告むいね皇子驚きむい即て宮を麓よりつて祇園天

皇と稱し奉りて尊まかしくみ孫まんくし崇め奉りて後當社
を合ちて大津郡瀬戸崎へ勧請せしゆめあり今秋開社是こ富所
を楮といひてハ此時より名つけしゆといひ傳ふ又富郡ハ大樹
古木は名譽うらうら古書にも多く載せられたるありへ中昔
のくくうれとかかりひゆるをこくに引かり

新林六

あつちから武の形の松板ハ屋よふもとまあさるめや 先使

天治五年二月廿日壬寅長門國阿武郡者為没官領内之間
為勸賞雖賜上肥彌太郎遠平為御連作取取可去進地頭職
之由依有勅定可退出之由被仰云々

逆髪皇子供奉の練人として武祭行を清葉實利定番信方か
といつゝ家なりと云今守永信方の内家連禰らうて子孫繁昌と
當社御祭壇は九月十五日より十六日まで久其式最重うて
御名代且流鋪馬献馬の式よりとて春日社の例に阿一市
中いもとより近郷近村の青藤奉集夜渡より日晴と誂まて
いとく藤くへり

古株札文左に録す 東に伊東入使節

本陣と長門國阿武郡瀬戸崎ハ後古御宮殿
古有地者天下泰平國定世に神も大権郡真正頼岡
御是廣敷御成運長入御家の安文利有御子孫繁昌
如景國英兵馬國書信方御列之當御祭壇地頭

家譜請奉行上村伊豆守直平在京人之在川下左衛門尉
能夫三清正主親允于時天正十一年九月廿八日

御當家御再興棟札

奉東正登八位當 下清正主親 造立大工引頭七左衛門

防長國主侍從大膳大夫從四位下大江綱廣朝臣

能備 後水法江守藤原純時 香正上國藤原兼大氏純定
遠江家行 關中九郎兵衛尉純久 神主正六位上守備兼大夫守藤原定久
同大 八弘新左衛門卜尉

古證文寫

奉_レ身_レ進_レ極_レ也_レ内_レ廣_レ進_レ於_レ反
申_レ友_レ地_レ荒_レ也_レの

已至_レ撰_レ 左京轉側南區法正
西平河也此也此也
右_レ併_レ撰_レ以_レ申_レ取_レ極_レ也_レ乃_レ大_レ長_レ地_レ又
法_レ取_レ也_レ法_レ以_レ廣_レ決_レ今_レ字_レ也_レ也_レ

以_レ也_レ也_レ
佐_レ伯_レ友_レ玉_レ也_レ

奉_レ身_レ進_レ極_レ也_レ社_レ津_レ田_レ也_レ
全_レ位_レ版_レ 柱_レ合_レ杉_レ田_レ
大_レ和_レに_レ野_レ也_レ能_レは_レ身_レ也_レ也_レ也_レ

三十一

山併

元亨元年
三月廿日

増江三夫

空行 ともら成野梅々

八幡ふお地可

馬御を二を野在ちんを久

貞和元年

御代文

三月廿日

山正

三

まゝに當社舊記より昔人皇三十七代 孝徳天皇の御宇大化

五年正月穴戸の國司草壁連龍經播磨の南谷麻山より白雉を

獲て陛下に獻を即白雉ハ祥瑞の物なりとて年号を改めら

る國司も賞よりて三年の調役を免るべかり此麻山とい

へる山當社南谷にありていと大山なり

昔記に云く白雉の
出る麻山ハ美祿郡ニ在

麻山よりへり到着左に見ゆ國に云々永八年前當郡河内村より白雉を

此は是ハ河内方といつる校野ハ納めりと眞書に云つり

麻山の舊記

麻山ハ赤村

河内
麻山といふ所あり

孝徳天皇の御宇此山より白雉出たり是則朝家白雉

の瑞有し最初ちり白雉ハ王者仁聖の時ハ則見ると云

美橋野

麻山より

獲らる身の

白堆を

國身へ

献ち固

まの合はる
入家なる
熱く下
主は
べい
まの合はる



新田氏

美橋野

麻山より

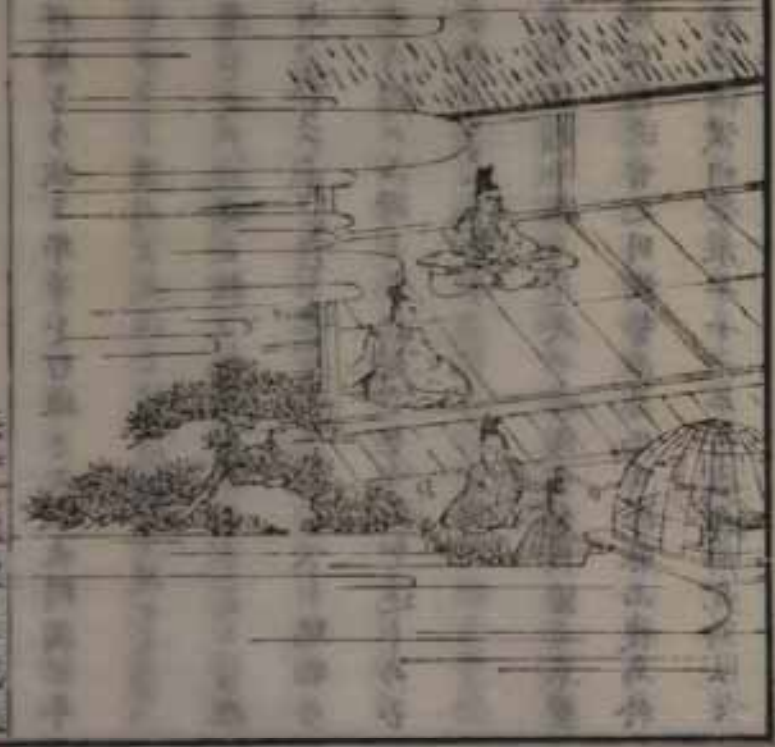
獲らる身の

白堆を

國身へ

献ち固

まの合はる
入家なる
熱く下
主は
べい
まの合はる



新田氏

國家の祥瑞あり故に年号を白雉と改め長門國三年
の調役をゆるし國司に大山といふ位階を授せらるゝ
とあり鷹を穴戸の境に放つことを禁むとあり白雉
を復此山へ放ちて其生を遂にめむるをへ瑞物の
中より羽毛の類ハ山野より落ちてその生を遂にめむ
ふことハ今條に記すなり

日本紀事

天皇豐日天皇白雉元年春二月庚午朔戊寅穴戸國司草壁
連醜姪白雉曰國造首之同族誓正月九日於麻山獲焉於
是問諸百濟君曰獲漢明帝永平十一年白雉在所見焉云々

中興甲申朔是隊仗如元會嚴左右大臣百官人等為四列於
紫門外以粟田臣飯虫等四人使執律與而在前去左右大臣
乃率百官及百濟君豐璋其弟塞城忠勝高麗侍醫毛治新羅
侍學士等而至中庭使三國公麻呂猪名公高見三輪若覽德
紀臣等麻呂岐太四人代執律與而進殿前時左右大臣就執
輿前頭伊勢王三國公麻呂倉臣小原執輿後頭置於御座之
前 天皇即召皇太子共執而觀皇太子退而再拜使臣勢大
臣奉賀曰公卿百官人等奉賀陛下以清平德治天下之故復
有白雉自西方出乃是陛下及至乎秋萬歲云々又詔而

日四方諸國郡等由天皇付之故朕怒臨而御萬今我親神祖
之所知穴戸園中有此嘉瑞所以大赦天下改元白雉仍禁放
鷹於穴戸亮賜公卿大夫以下至于令吏各賜有差於是褒美
園司草壁連曉並授大山并大給各有差復穴戸三年調役云
正嘉平元年
修多羅山永福寺 圓覺院と号以椿社の封内とありて當社
の別當より當寺ハ菰古寺の一負よりて満願寺又鳥取開山
也門關稗知覺宥快中興ハ法印快英玄長といふ事云々
本尊不動明王ハ行基并の作りと云井又天珠并を安以

相傳ふむうー延喜年中逆襲皇子當地へ辻幸せられて法
心と云うりむい一字の精舍をいとなきて念護併不動天珠
の二尊を安して世譽をまひらみ折くし淨雲の僧沙門知
覺阿闍梨此草菰を誇らひて淨世のさうも云々と誇らひ
終に一字を建てるふひ々々と云々より々々く廢壞して
就中天台と宗風を轉はすと天正年間真言沙門快英法印
來りて再興せり是より椿社の別當と云々ハ別鎌倉鶴
々同永福寺を模擬せりとのさうりくそ
湖景山面福寺 同所より東へぞり行てあり淨土宗よりて

正嘉平元年

龍昌院ニ属ハ本尊阿弥陀如来ハ聖徳太子の作開山ハ念
蓮社東譽良部和尚ニテ承應年中の建立ナリ本堂ヲ
揚子所の扁額ハ寶鏡寺の宮の真跡ニテ法皇の御冠櫓
前ニハ中将姫蓮糸織の曼陀羅ハもとに寶庫ニ藏む
萬年山福昌寺 同所より又東ニあり禪宗ニテ京都妙心
寺ニ属ス本尊ハ聖觀世音并ニテ開山を劔舟和尚トス
相傳ト山田村川上の農氏等打築リテ建立セテ寺刹ニテ
いろいろ所謂タリタリ寺記等ニテ詳クナリト項ハ九天眞
の間ナリトモいへり

茶臼山ニ同所上ニ據ヘタラ山を以テ往昔大内家権下岩成
豊後守城跡トイヒ傳ヘリ今猶山頭ニ礎石并筋石トココカ
一ニに残リテありト絶頂の大松一株ハ所打入の巳降山
の姿見ヲめ甲斐トキ為ニテ祖武守兵衛某ニテ栽ニセラル
所ナリト或書ニイフ

一、凡、江、南、諸、山、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、地、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、山、之、形、勢、則、不、同、矣、
 二、凡、江、南、諸、水、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、水、流、之、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、水、之、源、流、則、不、同、矣、
 三、凡、江、南、諸、城、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、城、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、城、之、基、址、則、不、同、矣、
 四、凡、江、南、諸、鎮、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、鎮、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、鎮、之、基、址、則、不、同、矣、
 五、凡、江、南、諸、鄉、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、鄉、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、鄉、之、基、址、則、不、同、矣、
 六、凡、江、南、諸、村、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、村、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、村、之、基、址、則、不、同、矣、
 七、凡、江、南、諸、畝、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、畝、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、畝、之、基、址、則、不、同、矣、
 八、凡、江、南、諸、園、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、園、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、園、之、基、址、則、不、同、矣、
 九、凡、江、南、諸、園、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、園、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、園、之、基、址、則、不、同、矣、
 十、凡、江、南、諸、園、之、名、多、與、江、北、同、者、蓋、其、園、之、形、勢、相、似、故、亦、有、同、名、也、然、其、園、之、基、址、則、不、同、矣、

八江換名所圖画二之卷終



萩市立萩図書館



111524328

